

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
日本児童教育専門学校	1984年4月2日	小林 光俊	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3207-5311		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 敬心学園	1986年4月11日	小林 光俊	〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3207-5311		
目 的	保育福祉科は保育士になるための基礎を講義で学び、現場ですぐに役立つ知識を身に付けることを目的とし、卒業と同時に保育士資格を取得する。				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
児童教育専門課程	保育福祉科	夜間3年	1700単位時間	平成22.2.26告示第30号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	570単位時間	1020単位時間	0 単位時間	360単位時間	30 単位時間
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人	187人	11 人	21 人	32 人	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期：4月1日～9月6日まで ■後期：9月7日～3月31日まで 	成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表(有) ■成績評価の基準・方法について S, A, B, C, D, Eで表し、C以上が合格点となり単位を付与される。 		
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■夏 季：8月2日～9月6日 ■冬 季：12月24日～1月3日 ■学 年 末：1月28日～3月31日 	卒業・進級条件	<ul style="list-style-type: none"> 進級条件：なし 卒業条件：82単位以上取得し、卒業要件科目の単位認定により卒業ができる 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制(有) ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談・保護者連絡 	課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 ボランティア・学内セミナー ■サークル活動(有) 		
主な就職先	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界 保育所・児童福祉施設等 ■就職率 100% 	主な資格・検定	保育士資格		
中途退学の現状	<ul style="list-style-type: none"> ■中途退学者 13名 ■中退率 7% 平成 24年4月1日在学者 177名 (平成24年4月入学者を含む) 平成 25年3月31日在学者 164名 (平成25年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 体調不良 など ■中退防止のための取組 クラス担任を中心とした学生との個別面談を通して、修学継続への精神的フォローをはかる。 				
ホームページ	URL: http://www.jje.ac.jp				

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

保育福祉科は実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携、実習・就職フェアを通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫を含む)に活かすことを目的とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成25年11月1日現在

名 前	所 属
小林 光俊	日本児童教育専門学校 校長
片岡 輝	東京家政大学 名誉教授 社会福祉法人 緑伸会 理事長 財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 理事長
新木 真理子	社会福祉法人 七施 育正保育園 園長
須江 宏行	公益財団法人 生長の家社会事業団 生長の家神の国寮 児童指導員
今泉 良一	学校法人双葉学園 認定こども園ふたばランド 教諭
菊池 一英	日本児童教育専門学校 副校長
阿久津 撰	日本児童教育専門学校 教務部長 日本児童教育専門学校 児童教育科学科長
中西 和子	日本児童教育専門学校 保育福祉科学科長
松森 照幸	日本児童教育専門学校 保育福祉科学科長
柳澤 均	日本児童教育専門学校 事務部長

(開催日時)

第1回 平成25年11月26日 18:00~19:00

第2回 平成25年12月12日 18:00~19:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学生が主体的に実習に取り組む姿勢を重視し、実習施設を学生自身が開拓し、実習相談室の担当教職員と密な連携を取って選定する。選定の基準は、過去の実習受け入れ実績をもとにして、本校の求める人材育成とのマッチング、及びカリキュラムに沿った指導・援助が行えるかどうかを判断するとともに、学生自身の個性、将来目標、交通条件等に配慮し選定する。また、本校と密に連絡を取り、学生指導ができるシステムが備わっているかも重要な選定基準である。選定後、施設と契約締結し、実習を実施する。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
保育実習Ⅰ	実習は、本校において履修した教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士及び、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	二葉乳児院、愛泉乳児園 ほうゆうベビーホーム 至誠館さくら乳児院 しゃんぐりらベビーホーム 大田区立コスモス苑 恩寵園 他 計112施設
保育実習Ⅱ/Ⅲ	実習は、本校において履修した教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士及び、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	たきやま保育園 城山保育園 小千谷市立吉谷保育園 陽だまりの丘保育園 立川たんぽぽ保育園 他 計76施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

研修は、教職員に現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力、資質等を向上させ、本校の理念・目的・目標を達成することを目的とする。

組織の理念実現のため個人の能力を高めることは必須であり、そのためにも組織的に研修を計画し、研修計画の必要性を説明し、納得を得ることに努める。計画の策定にあたっては必要分野・領域を的確に把握し、適切なテーマ・研修計画を設定する。そのために、教職員の専攻分野・担当業務及び本校関連分野に係る団体・企業等の意見を聞き、教職員の経験・能力等を勘案し研修計画を作成し、実施する。

業界分野の変化は法制度の変更によることが多く、制度変更に際し、行政機関等より意見聴取される機会が比較的多いものも業界団体・研究機関である。その業界団体等により実施される研修会・学術大会へ参加することは必須であり、継続的に参加を促すこととなる。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成25年12月3日現在

名 前	所 属
片岡 輝	東京家政大学 名誉教授 社会福祉法人 緑伸会 理事長 財団法人 文民教育協会 子どもの文化研究所 理事長
新木 真理子	社会福祉法人 七施 育正保育園 園長
須江 宏行	公益財団法人 生長の家社会事業団 生長の家神の国寮 児童指導員
今泉 良一	学校法人双葉学園 認定こども園ふたばランド 教諭

(学校関係者評価結果の公表方法)

学校ホームページにて公開

URL: <http://www.jje.ac.jp/features/disclosure.html>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

学校ホームページにて公開

URL: <http://www.jje.ac.jp/features/disclosure.html>

授業科目等の概要

(児童教育専門課程保育福祉科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			日本国憲法	・最高法規としての憲法のなりたちを知る。・近代立憲主義の枠組みを理解する。・日本の法の構造を把握する。・論理的思考力を養う。・論理的記述力を養う	1	30	2	○		
○			児童文学	・子どもが楽しみながら、絵本や物語に興味をもてる選び方や関わらせ方を探る。・多くの作品を読み合いながら魅力を探る。・「生きる力」について考える。・絵本や物語の読み聞かせについて学ぶ。・絵本や物語を手がかりに保育活動をイメージする。	1	30	2	○		
○			情報機器の操作	・幼児教育者が持つべき情報の基礎知識を得る。 ・情報機器を使う教育の利点と問題点を知る。 ・情報機器の活用法を学び考える。	2	30	2		○	
○			英語コミュニケーション	保育の環境で実際に使える英語表現を身につける。英語の歌、アクティビティ、絵本の使い方を学ぶ。・歌（ジェスチャー付き、手遊び歌など）	2	30	2		○	
○			体育Ⅰ	生きる力となる体力を培うスポーツ・体育は、心身の健康をもたらし、人と人がコミュニケーションして、喜び楽しむ重要な役割を担っている。それらを取りまく社会、環境を考え、運動生理・発達心理の立場から、よりよくスポーツ・体育を指導していけるよう学ぶ。	1	30	2	○		
○			体育Ⅱ	幼児期は、まず「からだ」が出来ていく基となる時期で、体育あそび及び適切なスポーツを通して、筋力・体力・調整力を付けると共に、明るく健康で、豊かな情操を培えるように保育士の温かく育む姿勢と指導力が求められている。その指導者としての資質を養う。	1	30	1			○
○			社会福祉	・保育士として必要な社会福祉の法、施策などの知識を学ぶ。・人（あるいは生物としてのヒト）について幅広い見方や考え方を養う。・よりよく生きること、ウェルビーイングについての理解を深める。	1	30	2	○		
○			相談援助	1. 相談援助の概要について理解する。 2. 相談援助の方法と技術について理解する。 3. 相談援助の具体的な展開について理解する。	2	30	1		○	
○			児童家庭福祉	「児童福祉」とは子どもが幸せになるために必要な取り組み全てを指す言葉である。本講義では、その取り組みを支える法律や具体的な児童福祉制度を理解することを目的とする。また現在の子どもの取り巻く環境についても学んでいく。	1	30	2	○		
○			保育原理	・保育の意義、保育の歴史など保育にかかわる基本的な事項を学ぶ。 ・保育環境、保育方法などの保育の展開について学ぶ。 ・保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ・保育の現状と今後の課題について理解する。	1	30	2	○		
○			社会的養護	・社会的養護の理念と今日的課題について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系について理解する。 ・施設養護と家庭的養護の実際について理解する。	1	30	2	○		

○		教育原理	教育に関する基礎的理解を通して、受講生各自の教育観を育む。教育の本質を知ること、教育と人間の発達との関係を学ぶ。教育の実態を歴史的に把握し、そこに現れた教育思想を学ぶ。	1	30	2	○		
○		保育者論	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割と倫理について理解する。 ・保育者の制度的な位置づけを理解する。 ・保育者の専門性について考察し、理解する。 ・保育者の協働について理解する。 ・保育者の専門職的成長について理解する。 	2	30	2	○		
○		保育の心理学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育実践にかかわる発達心理学の基礎知識を学ぶ。 ・生涯発達における乳幼児期の特徴、初期経験の重要性を理解する。 ・子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。 	1	30	2	○		
○		保育の心理学Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の心理学Ⅰで学んだ知識を実践で生かせるように、子どもの心身の発達と保育実践について学ぶ。 ・子どもが生活と遊びを通し、生涯にわたる生きる力の基礎を培う過程を理解する。 	2	30	1	○		
○		子どもの保健Ⅰa	1. 子どもの身体発育及び生理機能、運動機能、精神機能の発達について理解する。2. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。3. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。	1	30	2	○		
○		子どもの保健Ⅰb	1. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。2. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。3. 施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。	1	30	2	○		
○		子どもの保健Ⅱ	<p>“子どもの保健Ⅰ”で学習した知識をもとに、保育現場で保健活動を展開できる基礎を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。 	2	30	1	○		
○		子どもの食と栄養	<ul style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの発育と発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本とその内容、食育のための環境を理解する。 	1	30	2	○		
○		家庭支援論	<ul style="list-style-type: none"> 1. 子育て家庭を取り巻く社会状況等の変化 2. 家庭の意義と機能 3. 子育て家庭の支援体制 4. 家庭支援の展開と関係機関 	3	30	2	○		
○		保育課程論	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程の編成と指導計画の作成を学び、子どもの現在の充実と将来を展望した計画案を習得する。 ・年齢別の発達の主な特徴と保育者の援助の留意点を学ぶ。 ・子ども一人ひとりの発達、保育の展開を学び、実践につながる知識を深める。 	1	30	2	○		
○		保育内容総論	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針における保育内容の全体的な構造を理解する。 ・保育内容と子どもの理解とのかかわりについて学ぶ。 子どもの生活全体を通して養護と教育が一体的に展開することを学ぶ。 	1	30	1	○		
○		保育内容演習・健康	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針の領域「健康」についての理解を深めます。 ・乳幼児期の心身の発達や運動発達の特徴を学びます。 ・「健康な生活」をおくるためのベースをどう育てるかについて学びます。 	2	30	1	○		
○		保育内容演習・人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、保育内容に示される「人間関係」の領域において育むものについて理解する。 ・乳幼児期に親・保護者・友だちと関わりながら育む発達課程の必要性を学ぶ。 	2	30	1	○		
○		保育内容演習・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、保育内容に示される「環境」の領域において育むものについて理解する。 ・人、もの、場などが相互に関連し、子どもの生活を豊かにする環境構成を理解する。 	2	30	1	○		

○		保育内容演習・言葉	・言葉の獲得に関する領域「言葉」において目指されている事項を理解する。・コミュニケーションの手段である言葉の発達を知る。・領域「言葉」のねらいをどのように達成していくか、具体的に学習する。	2	30	1			○
○		保育内容演習・表現	子どもの発達を考えながら、保育に関わる表現活動全般を取り上げ、あそびを通して「表現することの楽しさ・喜び」を自ら感じ、体験し、それを子どもに伝えられる保育者になるための理論と実践を研究します。	2	30	1			○
○		乳児保育	乳児保育の特徴や意義を理解し、実際の保育現場でどのように乳児に保育するのかを学ぶ。乳児一人ひとりの個々の発達をふまえながら保育することの重要性について理解する。子育てに不安を感じがち乳児をもつ保護者への対応、支援について理解を深める。	2	30	2			○
○		障害児保育	様々な障害についての基本的な知識を学ぶ。障害の具体的な症状と障害の判断に必要な洞察と配慮を深める。障害のある子が本当に困ることとは何かについて考える力を養う。	3	30	2			○
○		社会的養護内容	子ども虐待に関連する内容について学習し対象となる子どもへの理解を深める。社会的養護における権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。心身の成長発達を保障し援助するための必要な知識や技能を習得する。	3	30	1			○
○		保育相談支援	保育所や幼稚園や地域のさまざまな現場で子どもと家族を応援しようとするときに、今よりほんの少しでも視野が広がり気持ちが楽になるのに役立つかも知れない考え方や方法について、一緒に学んでいきたい。	2	30	1			○
○		保育表現技術・楽典	音楽の基本的な構成要素を理解する。子どもの歌に親しみ、歌うこととリズムに合わせて身体を動かすことの喜びを自ら感じとる。楽譜の読み方とピアノ演奏の基礎を学ぶ。	1	30	1			○
○		保育表現技術・ピアノ I	・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル50番程度）。・簡単な子どもの歌を生き生きと弾きながら歌えるようになること。・自ら喜びを持って音楽表現を行えるようになること。	1	30	1			○
○		保育表現技術・造形 I	絵画の基本技法を学びながら、子どもたちの自己表現への良きアドバイザー、良き援助者としての、役割を把握してもらおうことを目標とする。	1	30	1			○
○		保育表現技術・幼児体育 I	・幼児の心身の発育・発達に即した、幼児体育の理論を学びます。・幼児体育の基本である“あそびを中心”とした指導法を実践します。・子どもの身近にある運動用具の安全な使用方法・管理の方法を身につけます。	2	30	1			○
○		保育実習 I - 1	実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士および、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	2	90	2			○
○		保育実習 I - 2	実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実際を習得し、この体験を通して保育所保育士および、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	3	90	2			○
○		保育実習指導 I a	・施設実習の意義と目的について理解する。 ・施設実習の特性について理解する。 ・施設実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について理解する。	2	30	1			○
○		保育実習指導 I b	学習経験である重要な保育実習を有意義なものとするために必要な事項を学び、理解する。保育所の実際、実習ノートの記載方法、実習段階に応じた活動内容などの具体的な項目について学ぶ。保育教材の製作、保育技術の習得と発表。	2	30	1			○

○			保育実践演習	一人ひとりが、子どもと保育に関わる幅広い問題の中から、自ら具体的なテーマを設定し、調査・分析・考察・発表する手法と能力を身につける。テーマに対する主観的な想いを、客観的で説得力ある内容として表現できることをめざす。	3	30	2		○	
○			教育史	日本における子どもの生活と子どもに対する教育の歴史を学習することにより、教育実践に対する歴史的視点を獲得する。各時代の子ども観、子育ての習俗、保育・教育に関わる社会制度、児童文化等、多様な観点から子どもの置かれていた現実を理解していきたい。	3	30	2		○	
○			保育臨床心理学	自分の「こころ」に触れる体験を通して、自分自身を知り、自分と向き合う。他者の「こころ」に触れる体験を通して、自己理解、他者理解への考察を深める。子ども達の心の世界について学び、知る。	3	30	2		○	
○			子どもの食と栄養実習	食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会のかかわりの中で理解する。食品と栄養との関係を献立作成を行うことで理解する。実習を通して調理と幼児の食に対して理解を深める。	2	30	1		○	
○			保育あそび論	実際の現場で、子どもたちと遊ぶ時の心得と、あそびのスキルを身につける。	3	30	2		○	
○			児童文化	子どもの遊びや楽しみの中に存在している、モノ・メディア・スペース等を包括的にとらえる概念として、「児童文化」を理解する。子どもの生活と発達に対する、「児童文化」の意味や役割を学ぶ。	3	30	2		○	
○			絵画造形技法	発達に合った活動を通して子どもが表現する喜びを味わうことができるような指導法を知る。 ・子どもの興味や関心から生まれる活動について知る。	2	30	1		○	
○			保育表現技術・ピアノⅡ	・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル60番程度）。 ・子どものうたを生き生きと弾きながらうたえるようになること。・自ら喜びを持って音楽表現を行えるようになること。	2	30	1		○	
		○	保育表現技術・声楽Ⅰ	童謡を子どもたちと楽しく歌うことは、連帯感や集中力を高め、生活指導の推進力になります。歌唱法・発声法の基礎を学び、表現豊かな歌唱ができるようにしましょう。	1	30	1		○	
○			保育表現技術・造形Ⅱ	造形・工作における用具の基本的使い方、自分の自己表現のあり方を学んで、子どもたちの自己表現の良きアドバイザー、良き後援者の役割りを把握してもらう事が目標。	1	30	1		○	
○			保育表現技術・幼児体育Ⅱ	幼児体育Ⅰで学んだ内容を基本として、更に実践的スキルを身につけます。運動遊具（マット、巧技台、ボールetc）の使用方法を学びます。固定遊具を使う体育あそびの数々を学びます。	3	30	1		○	
○			保育表現技術・ピアノⅢ	・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル72番程度）。 ・子どものうたを生き生きと弾きながらうたえるようになること。・実習に向けての準備と童謡レパートリーの拡大。	3	30	1		○	
		○	保育表現技術・ピアノⅣ	・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル80番程度）。 ・子どものうたを生き生きと弾きながらうたえるようになること。・実習に向けての準備と童謡レパートリーの拡大。	3	30	1		○	
	○		保育実習Ⅱ/Ⅲ	実習は本校において履修し教科全体の知識技能を、現場において総合的に応用し、施設援助、施設養護の実践を習得し、この体験を通して保育所保育士および、児童福祉施設職員としての基礎を学び、自覚を高めることを目的とする。	3	90	2		○	

○		実習研究概論	実習に向けての心がまえ全般を学びます。実習が何年次のいつの時期に実施されるのかを学びます。保育所、その他施設について概論的に学びます。実習生としてのマナーと常識を身につけます。	1	30	2	○		
	○	保育実習指導Ⅱ	・保育実習Ⅱの課題に向けて、具体的方法を深める。 ・部分・責任実習は指導計画案に基づき実際に実施する。・貴重な実習経験を共有し、保育者・保育現場へのさらなる理解を深める。	2	30	1		○	
	○	保育実習指導Ⅲ	・2年次で経験した保育実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回への課題をみいだす。・3年次の保育実習に向け、指導計画、保育技術の見直し、向上に1人1人問題意識、目的意識を持ち意欲的に学び実践につなぐ。	3	30	1		○	
	○	保育表現技術・ 声乐Ⅱ	季節のうた、行事のうた、生活のうた等、現場で歌われる歌を演習研究し、指導法を研究しましょう。グループや個人での発表を通して互いに聞き合い、より良い指導方法を身につけていきましょう。	3	30	1		○	
合計				58	科目	1980単位時間(87単位)			